

# 台風 19 号に対する農作物技術対策（事後対策）

令和元(2019)年 10 月 13 日

農政部経営技術課

## I 普通作物

### 1 水 稻

- (1) 冠水や浸水の被害を受けたほ場は、速やかに排水を行う。
- (2) 水尻を開け、水位の低下とともに排水するが、倒伏・冠水しているようなほ場は畦畔を切って早めに排水する。
- (3) ゴミや土砂等が水田に流れ込んでいないか十分確認してから収穫作業を行う。
- (4) 収穫期の地域において、倒伏や穂発芽の発生などにより品質の低下が懸念される場合には、可能な限り速やかに収穫作業を開始する。
- (5) 倒伏したほ場の収穫作業は、土壌を取り込まないように速度を落として丁寧に行う。
- (6) 粃が汚れた場合は仕分け収穫する。
- (7) 高水分粃を収穫した場合は、急激な乾燥を避ける。

### 2 大 豆

- (1) 冠水や浸水したほ場は、速やかに排水を行う。
- (2) 腐敗粒やべと病等の発生が懸念されることから、適切な防除を行う。

### 3 そ ば

- (1) 冠水や浸水したほ場は、速やかに排水を行う。
- (2) 倒伏した場合は、無理にいじらず自然に起き上がるのを待つ。

### 4 はとむぎ

- (1) 冠水や浸水したほ場は、速やかに排水を行う。
- (2) 葉枯病の発生が懸念されることから、適切な防除を行う。

## II 野 菜

### 1 いちご

- (1) 冠水や浸水したハウスは、水中ポンプ等を利用して、速やかに排水対策を行う。
- (2) ベッドが崩れている場合には、速やかに修繕を行う。大規模に崩壊した場合は、土壌水分が適湿になるのを待って、畝上げ機等を利用して畝の修復を行う。
- (3) 病害の発生が懸念されるので、速やかに薬剤を散布する。
- (4) 本ぼでは、草勢維持のため、窒素入り葉面散布剤等で追肥する。
- (5) 破損したハウス等は、速やかに修繕を行う。

### 2 夏秋なす

- (1) 冠水や浸水等を受けたほ場は、明渠の拡大や水中ポンプの利用により、速やかに排水を行う。
- (2) 大雨等により支柱が傾倒したものは修復し、誘引がずれたものは誘引をやり直す。側枝が折れたものは剪定する。

- (3) 風ずれにより発生した傷果は摘果する。損傷の著しい葉も摘葉する。
- (4) 灰色かび病、菌核病、褐色腐敗病等が発生しやすいので、登録農薬で予防的に防除する。
- (5) 必要により窒素入り葉面散布剤等の散布により草勢の回復を図る。

### 3 にら

- (1) 冠水や浸水等を受けたほ場は、明渠の拡大や水中ポンプの利用により、速やかに排水を行う。
- (2) 収穫中の2年株で冠水被害が著しい場合は、株を刈り捨て再生させる。
- (3) 白絹病、さび病等が発生しやすいので、登録農薬で予防的に防除する。
- (4) 施設では、破損、倒壊等の点検を行い、施設内に水が侵入した場合には、換気を十分に行い、施設内の湿度を下げ、病害の発生を防止する。

### 4 アスパラガス

- (1) 冠水や浸水等を受けたほ場は、明渠の拡大や水中ポンプの利用により、速やかに排水を行う。
- (2) 破損したハウス等は、速やかに修繕を行う。
- (3) 茎枯病、斑点病等が発生しやすいので、登録農薬で予防的に防除する。
- (4) 施設内に水が侵入した場合には、換気を十分に行い、施設内の湿度を下げ、病害の発生を防止する。

### 5 ブロッコリー

- (1) 冠水や浸水等を受けたほ場は、明渠の拡大や水中ポンプの利用により、速やかに排水を行う。
- (2) 黒腐病、軟腐病等が発生しやすいので、天候の回復を待ち、登録農薬で予防的に防除する。
- (3) 必要により生育回復のため、10a 当たり窒素・加里を成分で2kg程度追肥する。

### 6 ズッキーニ

- (1) 冠水や浸水等を受けたほ場は、明渠の拡大や水中ポンプの利用により、速やかに排水を行う。
- (2) 葉が折れたものは摘葉しほ場外に持ち出す。
- (3) 傷果は摘果する。損傷の著しい葉も摘葉する。
- (4) うどんこ病、軟腐病等が発生しやすいので、天候が回復次第、登録農薬で予防的に防除する。

### 7 トマト

- (1) 冠水や浸水等を受けたほ場は、明渠の拡大や水中ポンプの利用により、速やかに排水を行う。
- (2) 施設の破損等の点検を行い、必要な場合は速やかに修繕を行う。
- (3) 誘引がずれたものは誘引をやり直す。
- (4) 病害が発生しやすいので、登録農薬で予防的に防除する。
- (5) 冠水や浸水等による根傷みが懸念される場合、摘果等により着果負担を軽減する。また、窒素入り葉面散布剤等の散布により草勢の維持・回復を図る。

- (6) 施設内に水が侵入した場合には、換気を十分に行い施設内の湿度を下げ、病害の発生を防止する。また、天候回復後の急な強日射により、萎れ等が発生しやすいので、必要に応じて遮光等の措置を講じる。

## 8 きゅうり

- (1) 湛水や浸水等を受けた場合は、明渠の拡大や水中ポンプの利用により、速やかに排水を行う。
- (2) 施設の破損等の点検を行い、必要な場合は速やかに修繕を行う。
- (3) 誘引がずれたものは誘引をやり直す。側枝が折れたものは剪定する。
- (4) 傷果は摘果する。損傷の著しい葉は摘葉する。
- (5) べと病、うどんこ病、褐斑病等が発生しやすいので、登録農薬で予防的に防除する。
- (6) 冠水や浸水等による根傷みが懸念されるので、摘果等により着果負担を軽減する。また、窒素入葉面散布剤等の散布により草勢の維持・回復を図る。
- (7) 施設内に水が侵入した場合には、換気を十分に行い施設内の湿度を下げ、病害の発生を防止する。また、天候回復後の急な強日射により、萎れ等が発生しやすいので、必要に応じて遮光等の措置を講じる。

## 9 ねぎ

- (1) 冠水や浸水等を受けた場合は、速やかに排水を行う。
- (2) 倒伏したものは直ちに起こす。
- (3) 土壌の乾燥を待ち、再度土寄せする。
- (4) べと病、さび病、黒斑病等が発生しやすいので、天候が回復次第、登録農薬で予防的に防除する。
- (5) 草勢の回復を図るため、10 a 当たり窒素・加里を成分で 3 kg 程度追肥する。

## 10 みずな

- (1) 冠水や浸水等を受けた場合は、明渠の拡大や水中ポンプの利用により、速やかに排水を行う。
- (2) 病害等が発生しやすいので、登録農薬で予防的に防除する。
- (3) 生育促進を図るため、必要により 10 a 当たり窒素・加里を成分で 2 kg 程度追肥する。

## 11 はくさい

- (1) 冠水や浸水等を受けた場合は、明渠の拡大や水中ポンプの利用により、速やかに排水を行う。
- (2) 定植直後で、冠水または流失した場合は、状況により補植するか作型の変更または他品目へ変更する。
- (3) 天候の回復を待って、土寄せ・培土する。
- (4) 軟腐病等が発生しやすいので、登録農薬で予防的に防除する。
- (5) 生育促進を図るため、10 a 当たり窒素・加里を成分で 2 kg 程度追肥する。

## 12 キャベツ

- (1) 冠水や浸水等を受けたほ場は、明渠の拡大や水中ポンプの利用により、速やかに排水を行う。
- (2) 定植直後で、冠水または流失した場合は、状況により補植するか作型の変更または他品目へ変更する。
- (3) 天候の回復を待って、土寄せ・培土する。
- (4) 黒腐病、軟腐等が発生しやすいので、登録農薬で予防的に防除する。
- (5) 生育促進を図るため、10 a 当たり窒素・加里を成分で2 kg程度追肥する。

## 13 レタス

- (1) 冠水や浸水等を受けたほ場は、明渠の拡大や水中ポンプの利用により、速やかに排水を行う。
- (2) 黒腐病、軟腐等が発生しやすいので、登録農薬で予防的に防除する。

## 14 ほうれんそう

- (1) 冠水や浸水等を受けたほ場は、明渠の拡大や水中ポンプの利用により、速やかに排水を行う。
- (2) べと病等が発生しやすいので、登録農薬で予防的に防除する。
- (3) 生育促進を図るため、必要により10 a 当たり窒素・加里を成分で2 kg程度追肥する。

## 15 しゅんぎく

- (1) 冠水や浸水等を受けたほ場は、明渠の拡大や水中ポンプの利用により、速やかに排水を行う。
- (2) 葉枯病、べと病等が発生しやすいので、登録農薬で予防的に防除する。
- (3) 生育促進を図るため、必要により10 a 当たり窒素・加里を成分で2 kg程度追肥する。

# Ⅲ 果 樹

## 1 りんご

- (1) 浸水しているほ場は、速やかに排水を行う。
- (2) 土砂や流木等が流入したほ場は、作業安全を確保した上で取り除く。
- (3) 作土が流失した場合は、根が乾燥しないよう土を入れ、収穫が終了している樹は速効性窒素を施用する。
- (4) 病害が発生しやすくなるので、登録農薬で防除を行う。
- (5) 棚施設が破損している場合は、速やかに修繕する。

## 2 ぶどう

- (1) 浸水しているほ場は、速やかに排水を行う。
- (2) 土砂や流木等が流入したほ場は、作業安全を確保した上で取り除く。
- (3) 作土が流失した場合は、根が乾燥しないよう土を入れ、収穫が終了している樹は速効性窒素を施用する。
- (4) 棚施設が破損している場合は、速やかに修繕する。

### 3 いちじく

- (1) 浸水しているほ場は、速やかに排水を行う。
- (2) 土砂や流木等が流入したほ場は、作業安全を確保した上で取り除く。
- (3) 疫病、株枯病等が発生しやすいので、登録農薬で防除を行う。

### 4 なし

- (1) 浸水しているほ場は、速やかに排水を行う。
- (2) 土砂や流木等が流入したほ場は、作業安全を確保した上で取り除く。
- (3) 病害が発生しやすいので、登録農薬で防除を行う。
- (4) 棚施設が破損している場合は、速やかに修繕する。

## IV 花き

### 1 スプレー菊

- (1) 冠水や浸水したほ場は、速やかに排水対策を行う。
- (2) 浸水したほ場は、病害が発生しやすいので、登録農薬で予防的に防除する。
- (3) 倒伏した後、手直しが遅れると頂部が曲がるので、早急にネットの調整、手直しを行う。
- (4) 回復困難な作については、土壌消毒を徹底し次作の準備を行う。

### 2 りんどう

- (1) 冠水や浸水したほ場は、速やかに排水対策を行う。
- (2) 早急にネットの調整、手直しを行う。
- (3) 浸水したほ場は、病害が発生しやすいので、登録農薬で予防的に防除する。

### 3 シクラメン

- (1) 冠水や浸水したほ場は、速やかに排水対策を行う。
- (2) 被害の軽症な鉢を集約し、管理作業の効率化に努める。
- (3) 浸水した鉢は病害が発生しやすいので、登録農薬で予防的に防除する。
- (4) 流失した場合や、回復不可能な鉢は処分し、次作に備える。

### 4 洋らん類

- (1) 冠水や浸水したほ場は、速やかに排水対策を行う。
- (2) 被害の軽症な鉢を集約し、管理作業の効率化に努める。
- (3) 浸水した鉢は病害が発生しやすいので、登録農薬で予防的に防除する。
- (4) 流失した場合や、回復不可能な鉢は処分し、次作に備える。

### 5 トルコギキョウ

- (1) 冠水や浸水したほ場は、速やかに排水対策を行う。
- (2) 天候回復後の急な強日射により、萎れ等が発生しやすいので、必要に応じて遮光等の措置を講じる。
- (3) 温室内の換気に努め、過湿土壌の乾燥と温室内の湿度低下に努める。
- (4) 根腐れ等病害が発生し、回復が困難な病株は早めに除去し、二次病害の発生を抑え

る。

## V 特用作物

### 1 こんにゃく

- (1) 冠水や浸水した場合は速やかに排水を行う。
- (2) 表土が流出して芋や根が露出した場合には早急に土寄せを行う。
- (3) 腐敗病等が発生しやすいので、ボルドー液に抗生物質（登録農薬）を加えて防除する。

## VI 畜産

### 1 畜舎

- (1) 畜舎に浸水した場合は、水が引き次第、清掃とともに消石灰や逆性石鹼などで消毒を行い、疾病の発生を防除する。
- (2) 堆肥の流出があった場合は、環境汚染が生じる前に可能な限り速やかに対処する。

(注意)

- ※ 農薬の使用にあたっては使用基準（適用作物、希釈倍数、使用時期、使用回数等）を厳守する。同一成分の使用回数にも制限があるので注意する。
- ※ 農薬散布にあたっては飛散防止に十分注意する。